

地域密着型サービスの自己評価票

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域との交流をもち・・・」を理念に、住みなれた地域での生活ができるように支援している。	○	日々の生活の中から、地域との交流の場がもっと持てるように、努めていく必要がある。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝礼時に理念の復唱を行い業務に就いている。名札にも携帯している。また、理念について話し合いをするようにしている。	○	職員会議などで理念について話し合い、今後も理念の意義等について職員全員が理解を深め、より質の高い介護等に努めていく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族には入居時に、サービス担当者会議に出席された時、面会時等にコミュニケーションを図りながら理解してもらえよう取り組んでいる。また地域の人々には、運営推進会議、また、地区の区長に挨拶に行ったりしている。	○	家族には、ホームの行事毎に今後も説明し、協力を得る。地域の人々には、ホームの行事などに招待し、理解してもらえよう取り組んでいく。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえよう日常的なつきあいができるように努めている	ホーム周辺を散歩しすれ違う時など、挨拶を交わしたり、近隣の理容、美容室、スーパーマーケットを利用して日常的につきあいができるようにしている。行事等ある時は案内している。また、地域の方も散歩コースにして、立ち寄ったりしてもらっている。	○	今後も近隣の理容、美容室や、スーパーマーケットは利用していきたい。気軽に立ち寄れる雰囲気作りに努め、お付き合いが絶えないようにしていく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には、加入していないが、地元の幼稚園で行う行事(運動会・バザー)に参加している。地区の秋祭りには、ホームに御神輿が立ち寄ってくれたり、冬の「火の用心」には、ホームまで来てくれる。今年から、自治会の「回覧板」にホームの行事を入れてもらった。	○	自治会の行事にも参加できるように努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	民生委員との情報交換はおこなっている。また、食事会に来た時にホームの中を案内しグループホームについて簡単な説明はする。	○	地域の高齢者(老人会等)に、少しでも役立つ事があればお話しに行き取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各自で自己評価を行い、前向きに取り組んでいる。	○	結果後、職員会議で話し合いより良いサービスができることの参考にしていく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。サービスの評価については、報告している。運営推進会議での民生委員の橋渡しにより地域の幼稚園との交流が持てるようになった。また、昨年の防災についても、積極的な意見が出された。	○	今後もホームからの相談や、出席者に意見を聞き、協力してもらいながら、サービス向上に反映していききたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	福祉のことなどわからないことや、相談事は、担当者に正確なことを聞くようにしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内で専門の講師を呼んで勉強会があり、ホームから職員が2人出席した。家族懇談会で報告を行う。又 現在、権利擁護を利用している入居者の家族からも、内容のついて簡単な説明をもらって大変身近に感じわかりやすかった。	○	福祉関係の制度については、常に新しい知識を得ておくよう努めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会などで、意識向上に努め、言葉の虐待などにも注意を払うように努めている。又、フロア内でも、新聞などの情報をもとに話し合っている。	○	必要に応じて虐待防止について学んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時に、契約書、重要事項説明書を読みながら、説明し、家族からの質問、長期に居室を空ける時などの対応など不安に思われることは、理解、納得してもらうように説明をしている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が何んでも言える雰囲気作りはスタッフ一同心得ている。今までに運営に反映させるような意見、不満、苦情は、聞かれていない。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>面会時に家族に近況報告し密接な関わりを持っている。必要時は電話連絡し早い対応ができるよう心がけている。金銭管理については、前もって家族に了解を得てお小遣い程度預かり、金銭出納帳に付けている</p>	<p>○</p> <p>今後も状況等は、面会時や電話で報告し、定期的にホーム便りも作成しながら、ホーム内での暮らしぶりを報告していく。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情窓口を設置、需要事項説明書にも明示している。定期的に行っている運営推進会議にて、家族の意見など運営に反映させている。</p>	<p>○</p> <p>相談しやすい状況、そして、些細な家族の意見も相談事項として扱っていききたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>個人的に聴いたり、職員会議で意見を聞き、その場で話合っている。必要に応じては、上司に報告し意見をもっている。昨年の夏の一時金については、非常勤の職員にも同一金額に支給され、半数いる非常勤職員の仕事への意欲向上につながった。</p>	<p>○</p> <p>職員が話しやすい雰囲気づくりをしていきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員や入居者の急変時、行事などあるときは、話し合いながら調整している。職員の事情による休みの希望は受け付けている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年は、離職者がなく、利用者との信頼関係ができてきている。	○	今後もさらに職員が定着し、安定した職場になるように、不満等に耳を傾けていくと同時に、十分な引継ぎがおこなえるように努めていく。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年は、管理者、主任以外に段階的な研修に3名出席出来るようになった。また出来る限り職員全員が多くの研修に出席できるように努めている。ホーム内の勉強会は年3回位、他から講師を呼ん職員の要望に答えて行う計画である。	○	職員がホーム内での、自己満足に終わらないように、常に新しい事を学んでいきたい意欲を起こさせるような指導につとめていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内のグループホームとは、密に情報交換を行っているが、地域の同業者とは、連絡協議会が主催する研修に参加しその時に交流する程度である。	○	研修会を活用して他のホームのネットワーク作りに努めたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ユニットで話合ったり、各ユニットお茶会を設けてストレス軽減できるように努めている。個人面談も行っている。	○	各ユニットで、定期の会をもつことで、不満、業務改善案などだしてもらい、改善、ストレス軽減に努めたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人の施設部会が2ヶ月に1度開かれ、各ホームが運営状況等を報告し、評価を受ける。又、資格取得などについても、給与アップとなる。	○	問題が出てきたら話し合い、意見は尊重していきたい。資格取得などについても応援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者や職員は、本人の様子や状態を見ながら、話かけたり、話を聴く機会をつくり受け止めるよう努力している。	○ 信頼関係を築けるように努める
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時は、不安がないように十分な話し合いをしている。困っていることに対しても良く話しを聴き受け止めている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意見、要望を聴き希望にそえるようになサービスが出来るよう努めている。遠慮されている場合など、職員から何気なく必要とされているサービスを見極めて、サービス利用に安心してもらえるように努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に来苑できる方は来て、ホームの雰囲気を感じてもらい、納得してもらうようにしている。入居後は、「家事手伝いをさせていただいてる。」ことで馴染んでいくことが多く、家族との電話で安心し、買い物等で気分転換を図っていく。	○ 家族の協力を得ながら、最善の方法でサービスが出来るように工夫していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と一緒に出来ることはしてもらう。苑周辺の散歩しながら、つわをとったりして調理法など教えてもらうことがある。また、畑の草取りをしながら草の名前なども教えてもらう。	○ コミュニケーションの中から、入居者から教わる事が発見できるように努めていき、入居者が自信を持てるような生活となっていくように努めたい。

宮崎県延岡市 グループホーム「ととろの杜」(B棟)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事などの時、家族に来ていただき、職員と共に過ごしている。	○	家族参加の機会について、出来るだけ参加できるように、呼びかけに努めていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の様子を見ながら、家族に理解を求め家族との触れ合う機会が増えるように努める。電話、面会、外出、行事の参加など願います。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昨年の七夕祭りに電車を利用して、利用者達が昔良く出かけ賑わいのあった山下通りに行った。そこで昔からの食堂でちゃんぽん、おはぎを食べた。また、スーパーには、月2回買い物に行く。	○	近隣の人達と触れ合いを大切にして、その機会を増やしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の性格を把握して、入居者同士が話ができるように、職員が間に入り取り持っている。	○	個々の性格を把握し、その人に合った対応をしながら、入居者同士のコミュニケーションがとれるように支援していく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族と再会した時は、情報を聞いたり、あいさつをしている。相談も聞くようにしている。	○	家族からの相談があった時は、受け付ける。面会ができれば会ったりして付き合いを大切にしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子を見ながら希望等を把握して、本人の意思を尊重し過ぎしやすいように心がけている。本人のペースに合わせて対応している。	○	今後も意思を尊重しながら、本人本位を大切にしながら、家族、職員間で話し合い検討していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人、家族に聴いている。面会時にも情報を得るようにしている。	○	その人が最も望む生活が分からない事が多いので正確な情報収集に努める。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員間で情報を交換しながらケアや会話をする中で把握できるように努める。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族、職員から情報収集し、それを基にサービス担当者会議で、意見交換しながら介護計画を作成している。	○	家族以外の身内の面会があった時は、話をしながら情報収集する。また、体調面については、連携看護師のアドバイスをもらう。協力医以外については、主治医との連携がとれるようにしていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状態変化があった場合は、担当者会議を開催して家族や職員で計画を作成している。	○	今後も必要であれば見直しをし、個々に合った介護計画を作成していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に添って、一日の様子を個人記録に記入し、情報を共有し、必要であれば介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染みの関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	症状に応じて、デイケア（医療）を利用している。又、家族の事情により、ホームの生活が難しくなった時、有料老人ホームを紹介したりする。	○	家族や本人の希望があれば支援する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、民生委員と意見交換を行っている。消防職員による、火災についての講話や避難訓練の指導など協力を得ている。	○	ボランティアの協力を努める
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在デイケア（医療）を利用しているが、ケースワーカーと話ながら情報交換をしている。歩行器の必要な方がいて、福祉用具の業者に来てもらったりすることはある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	支援センターとは、電話で情報交換している。	○	必要なことは、協働していく。

宮崎県延岡市 グループホーム「ととろの杜」(B棟)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する医療が受けられるよう、受診時は、情報を提供している。必要に応じて職員も同行している。家族が受診困難な時は、職員で対応している。	○	適切な医療が受けられるよう、情報提供は行っていく。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医と相談しながら、専門医に受診できるよう支援している。受診時は、ホームの生活状況等を経過報告として家族にわたしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	担当看護師が入居者と一緒に過ごしなが、身体の状態把握に努めている。看護師不在で、異常が見られる時にも連絡をとり指示をもらって対応している。常日頃から相談にのってもらっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は面会を行い状態を把握し、医療機関(ケースワーカー等)や家族と話し合いを行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化する前に、かかりつけが協力医である場合は、ホームで主治医から、家族、管理者に、重度化に向けた話し合いが持たれる。	○	職員全員、ターミナルケアについて勉強会をし、かかりつけ医・看護師と話しながら重度化、終末期について共有していく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアのマニュアルは、作成しているが、現在は、まだ取り組んではない。	○	本人、家族が希望すれば、可能な限りターミナルを受け入れていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族や支援センターの職員と話し合い、情報交換をし、ダメージの防止に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	1人ひとりの人格を尊重し、周囲の配慮を行い声掛けや対応をしている。ホーム内で知り得た情報は、外部に漏洩しないように徹底している。	○	プライバシーに配慮した言葉掛けや対応ができるように、職員間でお互い注意し合っていきたい。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の能力や状態を把握して、その人に合った声掛け(ジェスチャーなど)をしている。日常的な作業への参加は声かけ促すがあくまでも本人の自由参加としている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを大切にしゆっくり過ごすことができるよう支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望する理容・美容へ一緒にいっている。洋服は、おしゃれが気になる方は、用意して選んでもらうようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食材の皮むき・味付け・盛り付け・を行っている。個人の機能に合った食事形態(粥・ミキサー)を提供している。	○	個人々の能力に合わせて、食事の準備や調理など職員と一緒にしていく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物支援をしながら、好みのものが楽しめるようにしている。和菓子関係を好まれる方が多いので、手造りの団子など、回数多く出している。食べれない時でも、和菓子を食べて、食欲が回復したこともある。	○	嗜好品については、家族の協力、主治医に相談しながら出来る範囲で楽しめるよう支援していきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿便意がない方については、排泄チェックをし状態把握しながら、排泄介助を行っている。場所がわからない方は、行動・動作を見ながらトイレ案内している。尿パット使用は最小限に抑えるように心がけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日、時間帯はきまっているが、個人の状態により入浴が必要なかたや希望がある時は、曜日を変えたり、入浴(シャワー)できるよう支援している。入浴介助は、着脱衣・洗体、見守りすべてマンツーマンで対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ソファの下にカーペットを敷いて、素足でくつろいでもらったり、自室で休んだりしてゆっくり過ごしている。就寝出来ないときは、職員室にきてゆっくり過ごせるように対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人の生活習慣が継続できて、満足や張りがあるように、家事手伝い、趣味、野菜作り、裁縫など個人にあった役割に声かけを行い、準備し支援をおこなっている。ドライブ、買い物なども気晴らしの為の支援を行っている。	○	今後も出来ることを引き出し、職員と一緒に出来る機会をふやしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の持てる人は、行事や外出時に買い物ができるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換を図ったり、外出を望まれる様子が見えてきたら、外出できるように支援している。ホーム周辺は散歩を行う場所では適している。市内ではあるが、車を使った野外活動も行っている。	○	外出の機会は少ないため、ボランティア等を探し、職員と共に外出の機会を増やしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望は聞かれないが、季節毎の地域で行う催し物や花見に出かける機会を作っている。	○	介護計画に「行ってみたい所」などを聴いて、年1回位、外出支援を行うよう努めていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかってきたら取り次いでいる。困難な方に対しては、職員が代理で聞き内容を簡潔に伝える。希望があれば電話を掛け話せるよう支援している。手紙も取りついでいる。	○	手紙、はがき(年賀状等)など遠慮なく出せるように声かけしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	お茶を飲みながら、ソファや居宅でゆっくり過ごして頂いている。面会時間は設定しているが、必要であればいつでも面会できることも説明している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない	○	正しく理解できるよう勉強会を取り入れ、身体拘束のないケアに取り組んでいきたい。

宮崎県延岡市 グループホーム「ととろの杜」(B棟)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	今年の1月までは、日中は鍵かけないようにしていた。しかし、2月21日に13時ころ入居者が行方不明となり3時間後に戻られた。それと活動力のある方、帰宅願望の強い方がいて、安全管理面から今は施錠している。	○	安全管理について話合い、再度一定時間でも鍵をかけないように取り組んでいきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	行動を見守りながら常に所在確認し、ゆっくり過ごせるよう配慮している。夜間は定時に巡視している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	家事手伝いが得意な方が数名いて、危険物の場所など、調理中は分かっているので、使用後は、所定外に保管している。5月、夜間に台所の危険物を持ち出しがあったからは、厳重な注意を払うようにしている。	○	安全管理について、日中、夜間点検項目を設けて安全確保に努めていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書を書きながら、原因について、各ユニットごと分析を行ない再発防止に努めている。又ユニットの会で、1人々の状態に応じた事故防止についても話し合っている。5月のリスクマネジメントの社内研修には、6名出席できた。	○	事故原因の分析について、勉強を続けていく必要がある。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルはある。いつでも見られるようになっていた。本年度のホーム内研修に入れている。	○	繰り返し学んでいく必要がある。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルはある。定期に火災を想定した避難訓練は行っている。地元の消防団に挨拶には出かけている。		自主的な訓練を増やしていきたい。近隣者に協力が得られるようにお付き合いを大事にしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	起こりうるリスクに対しては、入居時に説明し了解を得ている。状態変化についても、電話や面会時に説明し、対策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタルチェックや状態把握により記録に残し、朝礼、昼礼で申し送りもしている。日頃から健康観察を行い異常の早期発見に努めている。医療連携看護師に報告し指示を仰いでいる。又日中は、FAXにて主治医に報告している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理の支援は行っているが、薬の目的や副作用については、主治医、看護師から診療時に説明を受けている。また、再度薬説明書で確認をしながら、配薬を行っている。	○	医療関係者にわからないところは質問し、服薬確認の徹底に努めたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩、軽い運動、腹部マッサージ、水分補給、食品の工夫に心がけている。入居当時については、排便管理には、特に気をつけている。	○	便秘で体調不良を訴えられる方の対応について、身体を動かすことの働きかけなど、服薬での排便コントロールのみにしないようにしていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、1人ひとり声かけを行っている。困難な方は介助にて清潔保持に努めている。個人記録にチェックしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養量の計算は出来ないが、バランスよく摂れる様に献立をたてている。栄養量が確保できない時は、栄養剤で補給している。また、1人々の機能にあわせた食事形態で提供している。水分確保に就いては、定時に提供。熱発時には、水分補給ゼリーで水分補給に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルは作成しているが、適切な対応にて感染が広がらないように心がけ、手洗い、うがい、手の消毒を行っている。目の届く位置に予防対策法を掲示している。	○	安全管理として、予防対策をより具体的なものとして、日々点検記録していく必要がある。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の予防に心がけて研修も年一回はある。ハイターによる調理用具等の消毒、食器乾燥機による滅菌を行う。食材については、当日配達をしている。検品についても、丁寧にするようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節感(花や植木)を感じることができるよう心がけ、家庭的な雰囲気作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆっくり、落ち着いた生活ができるよう、フロアに観葉植物を置き入居者が親しみを感じてもらえるよう入居者が作った作品を飾ったり工夫している。くつろいでテレビを見てもらえるようソファを設置をし、カーペットを敷いている。テレビの音量は、大きい過ぎないように配慮している。居室のカーテンは、薄緑に変え、静かな雰囲気となっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアに区切りはないが、ソファとは別に窓際にテーブルと椅子を設置している。玄関の椅子に掛けられたり、職員室のソファに座りよく会話されている。職員室はいつでもいれるようドアは開放している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	家族に説明し、本人が使い慣れたものを持ち込 んでいただけるようお願いしている。また、職員サ イドで出来る範囲で対応している。	○	家族に説明し出来る限りなじみの物を持参して いただけるようお願いしていただく。職員も落ち着 いてもらえるように、写真を貼ったりして工夫を したい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	入居者に合わせて、換気や空調は配慮し温度設定 は行っている。入居者の声を聞きながら、その都 度調整している。常に職員の温度設定ではなく、 入居者が中心だと伝えている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	障害物は置かないようにしている。また配慮して いる。必要な部分には、手すりをつけている。	○	浴室が深いため、足の上がらない方には、台を用 意する必要がある。トイレについて、ウォッシュ レットが1ヶ所しかなく、必要な人に使えない時 があるので、2ヶ所ともウォッシュレットの備え を検討していく必要がある。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	トイレには「トイレ」「便所」と2通り表示して いる。居室の名前は小さく表示しているが、わか らない方は、見やすい位置に少し大きめに表示し ている。	○	入居者の様子を見ながら話し合い、個人に合った 対応ができるよう工夫する。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	建物の構造上ベランダはないが、一階物干し場が あるので一階まで、入居者と共に洗濯物を干しに 行ったり、ホーム周辺が散歩するのにふさわしい 道があるので散歩している。駐車場を利用して昼 食会やおやつを食べたりしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームは、緑に囲まれ田舎の空気が漂う「ほっと。」落ち着いた場所にあり、地域の方たちの散歩コースが苑の東側にある。行事も、お正月には、初詣。春には桜見、園庭で地域の方、家族を招待して食事会。夏には、夕涼み会。秋には、ミニ運動会、紅葉狩りでドライブ。冬には、家族とともに忘年会を行う。また6月には、門川の公園に手作り弁当を持って海を眺めながらゆっくりとした時間を過ごし大変喜ばれた。入居者、家族、地域、ホームとの関わりを大事にしながらホーム運営に当たっている。